

年間授業計画

第四商業高等学校（3 学年用）

单位数： 3 单位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ E 組

)

の目標：

【知識及び技能】社会生活を豊かに生きるために必要な言語や言葉について、その特質を理解し適切に使うことができる。

【思考力、判断力、表現力等】 社会生活を豊かに生きるために必要な言語や言葉をもとに、ものごとについて正確に考え、適切且つ多様に表現すること

【学びに向かう力、人間性等】 言語、言葉のもつ価値や感覚を尊重するとともに、自身の言語能力の向上を図ることができる。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 随筆を読み、その特質を理解するとともに、ノンフィクション分野の表現の多様性を学び、表現の幅を増やす。 【知識及び技能】 文学的文章のうち、ノンフィクション分野の基礎を学ぶために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味を考え、学習課題に沿って自身の考えを共有する。	【教材】 ・小池昌代「光の窓」 ・須賀敦子「クレールという女」 【指導項目・内容】 ・随筆という文章ジャンルの特質を理解する。 ・ノンフィクションという分野の特質を理解する。 ・本文で使われている比喻表現、ストーリー展開、技巧などに着目し、作品の特色を読み取る。				【知識・技能】 文学的文章のうち、ノンフィクション分野の基礎を学ぶために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味を考え、学習課題に沿って自身の考えを共有する。	○	○	○	7
	B 近代文学のうち、短編且つ漢詩文表現と連関している小説作品を読み、日本古来の表現との差異を自覚し、文体による表現の奥深さを学ぶ。 【知識及び技能】 文学的文章のうち小説分野に必要な語彙を増やし、語感を磨き語彙を豊かにするとともに、漢文脈を始めとした文体についての知見を広げる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や物語の展開、複雑な表現について、書き手の意図と読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から評価する 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味を考え、学習課題に沿って自身の考えを持ち、他者と共有する。	【教材】 ・中島敦「山月記」 【指導項目・内容】 ・小説というジャンルの特質を理解する。 ・本文で使われているレトリックを中心に、比喻表現、ストーリー展開、技巧などに着目し、作品の特色を読み取る。 ・漢文脈の語彙に触れ、漢語の背景にある日本語とは異なるニュアンスを考えて読む。 ・社会におけるエリート層の人間の苦悩を考えることを通して、羞恥、臆病、傲慢といった負の感情の受容とその影響について考察し、自身の考えを持つ。 ・文学における美について、その概念の意味するところを、本文の表現を通して考える。	○	○	○	【知識・技能】 文学的文章のうち小説分野に必要な語彙を増やし、語感を磨き語彙を豊かにするとともに、漢文脈を始めとした文体についての知見を広げる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や物語の展開、複雑な表現について、書き手の意図と読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から評価する 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味を考え、学習課題に沿って自身の考えを持ち、他者と共有する。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		○	○	○	1

2 学 期	C 近代文学のうち、長編小説作品を読み、文学作品の発表形式による作風の違いに対する認識を深め、 【知識及び技能】 文学的文章のうち小説分野を読むためのレトリックや表現の連関に意識を向けて読み、場面の設定や文体についての知識を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の発表形式と構成や物語の展開、場面の設定やレトリック表現の意味について、書き手の意図と読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から評価するとともに、一定の作品に対する批評を自身で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味と構成の工夫を考え、学習課題に沿って自他の考えを比較して批評する。	【教材】 ・夏目漱石「こころ」 【指導項目・内容】 ・新聞で発表された小説というジャンルの特質を理解する。 ・本文で使われているレトリックを中心に、比喻表現、場面の設定やストーリー展開、技巧などに着目し、作品の特色を読み取る。 ・近代の日本社会における、「日本人」の「こころ」の有り様について社会的背景を踏まえて考察し、その上で登場人物の行動、言動、表現の意味を考える。 ・作品中のテンスを書簡体という文体と結び付けて読み、その設定の構成上の効果や読み手に与える読書行為の意味について自身の考えを持つ。 ・教科書掲載箇所以外の箇所を補助的に読むことを通して、「教科用図書」の作成意図を考え、読書行為そのものについて自身の考えを表現する。	○	○	○	【知識・技能】 文学的文章のうち小説分野に必要な語彙を増やし、語感を磨き語彙を豊かにするとともに、漢文脈を始めとした文体についての知見を広める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や物語の展開、複雑な表現について、書き手の意図と読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から評価する 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く本文と向き合い、表現の意味を考え、学習課題に沿って自身の考えを持ち、他者と共有する。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		○	○	○	1
	D 近代文学のうち、擬古文体の短編小説を読み、明治期の日本文学を読み味わうとともに、現代日本文学、現代小説との違いを体感することで、時代と文学作品との関連性を学ぶ。 【知識及び技能】 文学的文章のうち擬古文体の小説分野を読むことで、古文表現特有の語彙や技巧について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の文体や構成、物語の展開、場面の設定やレトリック表現の意味について、作品成立の背景や読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から批評し、時代と空間と人間についての洞察を行う。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文と向き合い、擬古文の意味するところを理解しようと努め、表現の意味と構成の工夫を捉えることによって、学習課題に沿って自他の考えを交流することができる。	【教材】 ・森鷗外「舞姫」 【指導項目・内容】 ・擬古文体という文体の特質を理解する。 ・本文で使われているレトリックを中心に、比喻表現、場面の設定やストーリー展開、技巧などに着目し、作品の特色を読み取る。 ・近代の日本社会のうち特に明治時代における社会状況を正確に把握したうえで、その当時の「日本人」の精神世界の有り様について考察し、その上で登場人物の行動、言動、表現の意味を読む。 ・回想する文体による物語展開の構成上の工夫と、時代から影響を受けざるを得ない人間の心模様とを連関させて読み、人間が時代をどう生きるのか、について作品の考えを読み取る。 ・太田豊太郎とエリスについて、それぞれの視点から作品を通読し、視点人物による作品世界の見え方の違いを考察することで、読み手による多様な読みの可能性を考える。	○	○	○	【知識・技能】 文学的文章のうち擬古文体の小説分野を読むことで、古文表現特有の語彙や技巧について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の文体や構成、物語の展開、場面の設定やレトリック表現の意味について、作品成立の背景や読者の読みの意識との関係において多面的・多角的な視点から批評し、時代と空間と人間についての洞察を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く本文と向き合い、擬古文の意味するところを理解しようと努め、表現の意味と構成の工夫を捉えることによって、学習課題に沿って自他の考えを交流することができる。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		○	○	○	1
2 学 期	E 文学作品を豊かに読むために、韻文や文学、言語や言葉の価値、効用について述べられた評論、随筆等を読み、多様な読みの可能性、言語、言葉を使用する意義を考察する。 【知識及び技能】 言語、言葉に関する様々な文章を読み、文学の批評理論やターム、言説について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 広義の「文学」についての専門的な知見を学ぶことで、文学作品の研究方法の基礎を理解し、文学を客観的に批評する視点から作品の表現の理路や、構成の意図、社会や時代との交錯を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文と向き合い、文意を正確に理解することに努め、学習課題に沿って文学批評の基礎を習得しようとしている。	【教材】 ・リービ英雄「書かれた風景の中へ」 ・鮎川信夫「詩と感情生活」 ・安藤宏「演技する『私』」 ・諏訪敦彦「映画の可能性のために」 【指導項目・内容】 ・第一言語が日本語ではない人間にとって、外国文学や外国の景色を捉えることの意義を理解し、日本語表現の特質の一端を学ぶ。 ・文字表現だけではなく、風景やモノ、非言語的存在と文学との間を往還を通して、微視的な視点だけではなく、巨視的な視点から文学を考察する。 ・広義の「文学」の範囲と、その特質を学ぶことで、社会的、世界的な文学の広がりや歴史的変遷への視野を養う。	○	○	○	【知識・技能】 言語、言葉に関する様々な文章を読み、文学の批評理論やターム、言説について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 広義の「文学」についての専門的な知見を学ぶことで、文学作品の研究方法の基礎を理解し、文学を客観的に批評する視点から作品の表現の理路や、構成の意図、社会や時代との交錯を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く本文と向き合い、文意を正確に理解することに努め、学習課題に沿って文学批評の基礎を習得しようとしている。	○	○	○	11

